



～戮力協心～ NO.25

2024年3月12日

発行責任者 池尻 和寛

編集責任者 情 宣 部

東日本大震災から13年 忘れてはならない震災の教訓

※写真は2016年3月11日の宮城県陸前高田市

2011年3月11日14時46分、東北地方太平洋沖を震源とするM9.0の地震が発生、**最大震度7の揺れ**とその後に発生した**巨大津波**で多くの方が犠牲となり、また、暮らしが一変しました。加えて、**東京電力福島第一原発事故**による放射能汚染により、**多くの方々の故郷が奪われました。**

それから13年後の今年、元日に**能登半島地震**が発生しました。私たちは災害に直面するたび、過去の災害から学んだ教訓を生かし、被災者の救助・救護、支援、復興を行なってきました。

東日本大震災の被害状況

発生	2011年3月11日午後2時46分
震源地	三陸沖、深さ24*
規模	マグニチュード9.0/最大震度7
死者	1万5900人
行方不明者	2520人(3人減)
震災関連死	3802人(10人増)
住宅の全半壊	約40万6000戸
避難者	2万9328人(1556人減)

警察庁、各県などのデータから、カブ内の人数はこの1年での増減



しかし、時が経つにつれ教訓は忘れがちです。例えば、

○流言飛語 (デマ)

東日本大震災の時は、中国人・韓国人の窃盗団が被災地にむかったというデマが流れました。熊本地震では、動物園からライオンが逃げたという偽情報が、加工写真付きでネットにあがりました。能登半島地震でも、SNSに書き込まれた救助を求める投稿の中に偽情報も含まれていたことから、救助の妨げになるケースもありました。

こうした震災に乗じたデマは、100年前の関東大震災でも発生し、その際は多くの在日朝鮮人の方が虐殺されました。千葉県福田村(当時)では贖岐弁を話す行商人が朝鮮人と間違えられ、現地の人から殺害される事件まで発生しました(「福田村事件」)。

高度に情報化した現代だからこそ、発信する側は正確な情報を伝えることを意識しなくてはならないし、受け手はその真偽を見定める必要があります。

○原子力発電の危険性

当時の民主党政権は、福島第一原発事故を受けて日本の原発政策を見直し、「2030年までに原発稼働ゼロ」を掲げました。しかし、現在の自民党・岸田政権は環境にやさしい発電方法として原発を推進し、停止していた原発の再稼働や原発の40年超運転を認めるなどの**原発推進にむけた動きを加速**させています。

今回の能登半島地震では**北陸電力志賀原発**が被害を受け、建屋の耐震性の不備や明らかになっていない断層の存在など様々な問題が浮上、1歩間違えれば「3.11」の二の舞となっていた可能性があります。しかし、原子力規制委員会は「異常なし」という判断を下しました。**原子力は人の手に負えないものです。3.11で私たちが身をもって掴んだ教訓を活かさない現政権の原発政策は止めなくてはなりません。**

2024年は年始に震災や事故が相次ぎ、波乱の幕開けとなりました。だからこそ、「3.11」を思い出し、**防災意識を高め、復興や原発のあり方について考えていきましょう。**

がんばろう北陸！がんばろう東北！

震災の教訓を胸に自分にできることを考え、行動しよう！